

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |           |  |
|---------|-------------------|-----------|--|
| 事業所番号   | 3577700226        |           |  |
| 法人名     | 医療法人 健仁会          |           |  |
| 事業所名    | グループホーム風花         |           |  |
| 所在地     | 山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号 |           |  |
| 自己評価作成日 | 令和4年5月29日         | 評価結果市町受理日 |  |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|           |                                |  |  |
|-----------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名     | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク |  |  |
| 所在地       | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内   |  |  |
| 聞き取り調査実施日 | 令和4年6月24日                      |  |  |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風花の門を入ると玄関までのアプローチにはプランターで育てた花や、ボランティアの方が毎日手入れして下さる畑が広がり、季節に応じた野菜の収穫や花植えを利用者様と行っています。新型コロナウイルスの影響で風花でもご家族の面会禁止や利用者様の外出制限を行っています。このコロナ禍の中で地域への外出もままならない状況ですが、素敵な苑庭を活かして天気の良い日は季節の野菜を植えた畑やプランター・花壇に植えつけた花を見に広い苑庭に出かけ、太陽に当たる機会を増やしています。グループホームの理念である「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいっまでも自分らしく生活していける。このコロナ禍で地域の方との関わりが減っているのが現状ですが、30分ボランティア、近隣自治会、ご家族など多の方々へ運営推進会議の資料をお渡しし、お互いに情報交換や意見を頂き馴染みの関係が途切れないようにしています。ご家族へは風花で行われた行事や職員研修等を載せた風花メールを毎月郵送しています。風花メールは、日ごとの様子がよくわかり会えない日が続きませんが元気な姿が見れて嬉しです」と喜ばれています。外出行事が難しい中ですが室内で出来る行事を考え、利用者様の声の笑顔や笑い声が聞けるように努めています。法人ではハトリ職員が、コロナ禍で身体を動かす機会が少ない利用者様の為に毎日楽しんでできるリズム体操のDVDを作成。地元山陽小野田市の風景を映像で流しながら、懐かし歌謡曲で行う体操は利用者様も毎日の楽しみです。短い時間ながらも感染に留意し曜日・時間で区切り、接触を減らすことで面会を行っています。山口県内で感染が広がっている時は一時的に面会を制限することもあり、利用者様がご家族と会えない期間が続くこともあります。コロナ禍が収束するまで利用者様・ご家族・地域の皆様・職員が協力して頑張っていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、手作りの神社での初詣、節分の豆まきと恵方巻づくり、お雛様飾り、お花見、こいのぼり、ソーメン流し、スイカ割り、花火大会など、利用者の笑顔が見られる季節感のある月毎のイベントを企画され、楽しみごとや気分転換の支援をされています。毎月1回「料理の日」を設けられ、事業所の畑でできた旬の野菜や果物を使って、利用者は職員と一緒に収穫や下ごしらえ、味付け、盛り付けなどでできることをされたり、おやつづくりや保存食作りなど、活躍できる場面をうくられて、利用者には張り合いのある時間を提供されています。月1回、事業所だよりを作成され、家族や運営推進会議のメンバーに送付してされます。利用者の日々の様子やいきいきとした表情を捉えた写真と行事予定、職員の研修など記載され、季節感あふれるものとなっており、家族や運営推進委員も楽しみにしておられます。職員は、内部研修でプライバシー保護について学ばれ、言葉かけ時の声のトーンに気を付けられて、ゆつくりおだやかに話すことなどを職員間で申し合わせておられ、利用者一人ひとりの人格を尊重され、プライバシーを損ねない対応に心がけておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|----|--|---|----|--|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:24. 25. 26)   | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:10. 11. 20) |
| 58 | 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:19. 39)          | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2. 21)                     |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:39)                 | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:5)  |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38. 39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:12. 13)                                      |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:50)                | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>○ 4. ほとんどいない  | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う  |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:31. 32)      | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                    |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:29) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    |    |  |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている       | 新任、新人職員には入社時に法人担当者や管理者・リーダーが個別で理念について話をしている。職員が風花で行う会議の際には理念・ケアの4つの柱の唱和を行っている。普段の介護の色々な場面で目に入るように名札の裏や各書類、スタッフルーム等に掲示し、利用者様との関わり方を常に意識し、実践に繋げている。                      | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念と「ケアの4つの柱」を事業所内に掲示し、月1回のユニット合同会議や月2回の各ユニット会議時に唱和している。年1回、内部研修で理念について学んでいる他、名札や書類等に記載し日々のケアの場面で常に立ち返り実践につなげている。   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している       | ボランティア・施設見学等は法人のコロナ感染予防対策の観為受け入れは中止している。地域行事も縮小や中止になったことから参加も控えているが、運営推進会議を通して地域の方や30分ボランティアの方へ風花の利用者様の状況や風花メール等資料を送り意見交換を行っている。ボランティアの方が季節の野菜作りや庭の手入れをしに毎日来てくださる。     | 自治会に加入している。自治会の行事は中止が多く参加していない。地域との交流が難しい状況であるが、地域の人からの千羽鶴や手作りの飾り物が届いたり、毎日朝夕2回の30分ボランティア(畑の野菜作りや庭の手入れ)の受け入れや、3か月に1回の移動美容室の利用など、事業所は地域の一員として交流している。  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている     | 地域の方へは運営推進会議を通して意見を頂く際に、介護や認知症に関してなど質問がないか受けお話を聞いている。現在は施設内の見学が出来ない為、窓越しに風花の様子を見て頂いたり風花メールを見て頂いている。利用者様のグループホームでの生活状況をメールで詳しくお伝えすることで楽しみ事があり、安心して生活できる場所である事を知って頂いている。 | /   | /                 |
| 4                  | (3) | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 毎年4月の風花勉強会で外部評価と自己評価について学び、介護経験のある職員は支援について見直しの機会になり、新任職員からは項目の問いに理解が難しいと質問があり管理者やリーダーが1対1で答えている。  | 職員は、外部評価の目的と自己評価の取り組みについて年1回内部研修で学んでいる。管理者が評価の意義について説明し、全職員に自己評価のための書類を配布し、各職員が記入したものを、管理者とユニットリーダー、職員代表で話し合っまとめている。まとめたものを職員間で回覧している。ガイド集を活用し、いつでも職員が閲覧できるようにしている。評価を活かして、毎月、心肺蘇生、AED、吸引器の取り扱い方等の応急手当の訓練を継続している。 |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5  | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 運営推進会議はコロナ感染予防対策として資料を自治会長・民生委員・第三者委員・地域代表者の方やご家族へ郵送させて頂き、利用者様状況や事業所の取り組みをお知らせし、お一人おひとり電話で質問やご意見を頂く文書会議で実施している。                                 | 会議は年6回書面での開催をしている。利用者の状況、サービス提供の状況、事業計画と実施報告、インシデントアクシデント、避難訓練の報告など資料をメンバーに郵送し、電話で意見を聞いている。議事録を家族に送付している。災害時の自治会と事業所の協定書の確認や毎月の事業所だより(風花メール)を楽しみにしているという応援メッセージの他、コロナ禍での利用者の健康や職員への慰労の言葉が聞かれている。、   |                   |
| 6  | (5) | ○市町との連携<br>市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる  | 地域包括支援センター主催の認知症支援ネットワーク会議の参加は控えているが資料を郵送してもらい情報を共有している。施設としての感染対策についての情報交換もしており、介護保険更新時も相談しながら手続きをしている。コロナ感染対策についての情報も適宜にメールで届いており、参考にし改善している。 | 市担当者とは、メールや電話、FAX、運営推進会議時にコロナ感染対策等の情報交換をしたり、申請手続きに直接出向いて相談しているなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換をし連携を図っている。  |                   |
| 7  | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止の指針を見直し、年2回風花勉強会で取り上げている。身体拘束適正化検討会議を3ヶ月に一度行い、声のかけ方や関わり方等を話し合い、利用者様の安全を確保しながらその人らしい生活が送れるような支援にみんなで取り組んでいる。                               | 3か月毎に「身体拘束等適正化検討委員会」を開催している。職員は年2回内部研修で身体拘束排除に向けての取り組みについて学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、言葉かけの工夫をしたり、職員と一緒に事業所の庭や畑歩いたりデッキに出たりして気分転換を図っている。スピーチロックについては、管理者は職員にその場面での言葉かけを振り返ってもらい、相手を否定したり行動制限の言葉はなかったかを確認するなどの指導をしている。職員どおしでも注意したり話し合っている。 |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                  | 高齢者虐待防止関連法も含め、施設における虐待行為とはどのようなことなのかを風花勉強会で話し合っている。その時に職員が抱えている不安やストレスと感ずることはないか管理者やリーダーは把握することに努め、職員を交え検討することで虐待にならない方法を考えている。                         |   |                   |
| 9  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している              | 現在成年後見制度を利用されている利用者様はおられないが、風花勉強会で議題にあげ学んでいる。参加できなかった職員へは、報告書と資料を回覧しており誰もが制度について学べるようにしている。   |   |                   |
| 10 |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                                   | 契約は管理者がしており、重要事項説明書・契約書をもとにご家族の不安や質問を受けながら時間をかけて理解・納得されるまで説明している。介護保険の改定時にはわかりやすく書面にし説明することで理解頂いている。契約書と一緒に保管のお願いをしている。                                 |   |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時ご家族に要望相談窓口・第三者委員の設置があり、意見や相談が出来る体制があることを伝えている。ご家族から要望や相談があった時には、内容を要望書や連絡帳で職員全員が知るようしており、日々のケアに活かしている。ご家族と電話でお話する際は要望や相談がないか確認している。風花玄関には要望箱を設置している。 | 契約時に相談や苦情の受付体制や、第三者委員、処理手続きについて本人や家族に説明している。運営推進会議時や面会時、電話や年1回のアンケート、毎月の事業所だより送付時等に意見や要望を聞いている。コロナ禍で外出ができない利用者の対応や、本人の好きな週刊誌の定期購読の要望等に、職員間で話し合って対応し運営に活かしている。   |                   |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 月2回のユニット会議、月1回の合同会議があり、職員が意見や相談がしやすい場となっている。会議で挙げた意見や提案があれば代表参加のリモート会議で伝え、改善策を検討している。   | 月1回のユニット合同会議や月2回のユニット会議、毎日の申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務のなかでも聞いている。非常勤職員の出勤時間帯について働きやすい環境づくりを話し合っている。外出行事がむずかしいなか、利用者の笑顔と笑い声が聞ける室内での行事を職員間で話し合い工夫して反映させている。 |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 外部研修受講や資格取得に向けての受験等、職員は積極的に取り組んでいる。有資格者には手当がつく。シフト作成時には希望を聞いており、休みの日や希望の出勤日にはなるべく添えるようにシフトの調整をしている。日頃は残業することなく定時に帰り、緊急・行事などの残業は手当がつき、職場環境は整っている。 |   |                   |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 管理者は職員の実務経験年数を把握し、資格取得に向け取り組めるようにシフトの調整をしている。今年度は実務者研修を2名が終了している。介護福祉士は2名が受験した。新任職員にはプリセプターをつけ、介護技術・認知症ケア等の教育をしている。                              | 外部研修は、職員に情報を伝え希望や段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。介護福祉士実務者研修に3名参加している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回風花勉強会を実施し、認知症ケア、身体拘束、高齢者虐待、非常災害時の対応手順と役割分担、重度化及び看取りに関する指針、事故発生予防と再発防止、成年後見制度、ケアプラン、自己評価・外部評価、夏の感染症、急変時の対応をテーマにしている。勉強会に合わせて応急手当(心肺蘇生、AED)の訓練をしている。参加できなかった職員には資料を回覧している。新人研修は、法人研修の後に、日常業務のなかでプリセプターによる教育や先輩職員の指導をうけて働きながら学べるようにしている。 |                   |
| 15 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ感染予防の観点から見学や会議を控え交流の機会は少なかったが、地域包括支援センター主催のネットワーク会議資料も郵送してもらっており、他事業所の取り組みも知る機会になっている。  |   |                   |

| 自己                           | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
|                              |    |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |   |      |                   |
| 16                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の見学ではコロナ禍の為、外から入居利用者様の様子や居室を見て頂いたり風花メールで行事などについてお伝えしている。入居時には入居時情報などをしっかりと確認し、情報を前もって知ること、入居された時に利用者様とのコミュニケーションがスムーズに取れることで、安心した生活が送れるように工夫している。        |      |                   |
| 17                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前には見学や入居前カンファレンスをしており、管理者やリーダーと一緒に不安や要望を伺う機会をつくっている。法人相談員が窓口になり施設サービスについて相談にのっている。  |      |                   |
| 18                           |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入居後のかかりつけ医について必要であれば歯科や他科受診など、活用できるサービスについて支援している。遠くにお住いのご家族やお勤めで付き添えないご家族に代わって継続して通院介助が出来るようにしている。契約時には、相談員、ケアマネ、管理者、担当職員が連携し、利用者様やご家族が必要なサービスについて話し合っている。 |      |                   |
| 19                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 職員は入居前情報から利用者様の生活歴を知り、住む環境が変わっても得意なこと・お好きなことが続いている声掛けや、他利用者様と馴染みの関係が築けるように席やソファの配置を工夫している。  |      |                   |
| 20                           |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 管理者やリーダー・担当者が窓口になり連絡を取り合っている。ご家族から相談や要望があった時には、要望書や連絡帳で職員皆が把握し対応に努めることで安心に繋がっている。玄関ロビーには職員の写真入りのボードがあり名前を憶えて頂けるようにしている。                                     |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | コロナ感染予防の取り組みとして面会に制限をかけることが度々あった為、ご家族とは窓越し面会や、電話・タブレット・リモート面会などの支援をすることで関係が途切れないようにしている。   | 家族との窓越しの面会やリモート面会として他、電話や手紙、はがきや年賀状による交流や、海外の家族からのエアメール、国際電話の取次ぎ等、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。法人のリハビリ職員が作成した「リズム体操」は、利用者の馴染みの市内の風景を映像で流し、懐かしい歌謡曲で歌う体操は、利用者の楽しみになっている。 |                   |
| 22                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | コミュニケーションの難しい方には職員が横に付いたり、間に入り利用者様同士の関わりのきっかけづくりに努めている。利用者様が座られる席は気の合う方と一緒に配置したり、お一人でゆっくり、皆が見渡せる席などその方一人一人の想いに添っている。                           |   |                   |
| 23                                 |      | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去時には風花で撮りためた思い出の写真のアルバムや、CD-Rへ写真をまとめお渡ししている。  |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |                   |
| 24                                 | (11) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                         | 普段の会話の中から希望を伺っている。お部屋でゆっくり過ごしたい方もおられる為、無理強いしないでおやつや食事の時などコミュニケーションがとれるように声掛けをしている。思いを伝えることが難しくなられた方には表情やしぐさから想いを汲み取り支援している。                    | 入居時に、本人の生活歴や趣味、特技などをアセスメントしている。日々の関わりのなかで利用者が発した言葉や表情、しぐさなど気づいたことを「生活ケアプラン記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い本人本位に検討している。  |                   |
| 25                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                     | 入居前情報や契約の時にご家族からこれまでの生活の様子やこれからの要望などをしっかり伺い、趣味・嗜好をもとに生活の中へ取り入れるように支援している。追記した情報は連絡帳や回覧で職員全員で確認出来る事で、生活する環境が変わっても安心して過ごして頂けるように関わり方について話し合っている。 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | ケース記録には1日のご様子、生活記録にはバイタル・食事量・水分量・排泄・入浴・睡眠状況などを記録し一目で身体・精神状況が把握出来るようにしている。月2回のユニット会議で議題にあげ支援の方法を話し合っている。会議録は回覧し全員が把握できるようにしている。  |  |                   |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎日、ケース記録へ実施した生活支援計画の番号を記入し実践状況が一目でわかるようにしている。ケアカンファレンスは3か月毎に見直ししているが、利用者様の状態の変化に合わせてその都度介護計画の見直しに繋げている。   | 管理者と計画作成担当者、利用者担当職員で、月1回サービス担当者会議を開催している。本人や家族の思いや意向に沿って、医師や訪問看護師、理学療法士薬剤師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングと見直しをしている。本人の状態や意向が変わった時にはその都度介護計画を見直ししている。食事摂取量が少ない利用者に対して、本人の好みのものを工夫して提供したり、その人の生活のペースにあわせた食事時間を設けているなど、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添った介護計画を作成している。 |                   |
| 28 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 利用者様お一人おひとりに担当者を決めることで、状況を深く知ることに努めている。ケース記録や個人連絡帳に心身の変化や処方の変更等を記入していることで情報を共有しケアプラン更新・変更に活かしている。   |  |                   |
| 29 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | ユニットで出来るリハビリ職員による体操やクリニック受診付き添いなどの支援をしている。美容院に行くことが出来なくなっても移動美容室を利用できるように予約を入れ、利用者様は好みの髪形にされ喜ばれている。歯科も協力医療機関として契約しており、義歯の調整や治療・口腔ケアを受けられている。他科受診の際ご家族から付添いの要望があった場合は、調整し職員が付き添っている。週に1回訪問看護や2週に1回の薬剤管理指導があり、体調不良の早期対応や管理に努めている。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | コロナ感染予防の取り組みとして外出を控えている。広報誌を見ながら地域の行事や馴染みの場所の話に繋げている。今年度は法人の厨房が3時のおやつを「山口県の銘菓シリーズ」とうたい、お店から取り寄せている。利用者様は楽しみにして召し上がっておられる。                  |   |                   |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 入居前からのかかりつけ医・専門医にかかられている利用者様には受診時、ご様子やバイタルなどが記入された物をお渡しし、安心して受診できるように支援している。ご家族が付き添えない時には、職員が付き添っている。                                      | 協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受けている。以前からのかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て受診の支援をし、バイタル等の情報を医師に提供している。受診結果は、家族へは電話や面会時に伝えられている他、健康診断書として家族へ月1回送付している。職員間では、連絡帳に記入して情報を伝えている。緊急時は協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。 |                   |
| 32 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 法人内のクリニックと医療連携があり、週に一度訪問看護がある。一週間の体調や変化のあったことなどを伝えて、アドバイスを受けている。体調不良があった時には医師・訪問看護師に病状を報告し、連携を図っている。                                       |   |                   |
| 33 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は1か月間居室の取り置きが出来る。入院された時には看護・介護情報提供書を作成し、普段のご様子や最終入浴、排便などもわかるようにしている。管理者は入院先の担当看護師と電話での情報提供もしている。病院と法人の地域連携室が連絡を綿密に取り合い、早期退院に向けて取り組んでいる。 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                                     |
|----|------|---|---|---|-------------------------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                   |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる    | 医師・看護師・管理者がご家族と何度も話し合いの場を持ち、ご意向を伺うようにしている。看取りの指針にそって多職種が協力し、痛みの緩和に努め穏やかな環境の中で過ごして頂けるようにしている。ご意向はケアプランに取り入れ、毎日のケアにつなげている。風花勉強会で看取りの指針や重度化についての勉強会を行っており、エンゼルケアの手順などを職員同士で確認しあっている。 | 契約時に「重度化及び看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について本人と家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を確認し、医師や看護師の意見を参考に、他施設への移設を含めて話し合い方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。この1年で2名の看取りを経験している。  |                                     |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え<br>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 事故発生時の対応、事故発生予防マニュアルがある。誤嚥発見から初期対応、AED使用までの流れの手順を毎月一回チェックを受けており、繰り返し確認してもらうことで迅速に動けるように訓練をしている。緊急時持ち出しファイルを作成しており、救急車を呼ぶ前にする事、準備するもの、急変時連絡先などがわかるようにしており職員全員で把握している。              | 事例が生じた場合、インシデント報告やアクシデント報告書に、発生経緯、対応と経過、利用者と家族への説明とその反応、今後の対策などを記入して回覧し、月1回のユニット会議で再検討し一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。「事故発生予防マニュアル」に沿って誤嚥、窒息、誤薬、転倒、私物の破損と紛失、食中毒、インフルエンザ、ノロウイルス等について、月1回勉強会を実施している他、月1回応急手当研修と防犯訓練を行い、全職員が事故発生時に迅速に対応できるように訓練している。 | ・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続 |
| 36 | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 法人の防災訓練がある。地域の自治会とは災害時における協定書を結んでいるが、コロナ禍の為今年度は参加を見送っている。運営推進会議の際に訓練について意見交換している。火災だけでなく水害に対しての訓練も行っている。  | 年2回、拠点施設合同で火災を想定した消火・避難・誘導訓練、簡易担架での搬送訓練を実施している他、水害を想定した建物2階への避難訓練を実施している。利用者も参加しており、うち1回は消防署の指導のもとに実施している。地元自治会とは災害時における協定書を交わしており、地域との協力体制を築いている。  |                                     |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |   |                   |
| 37                               | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                 | 風花勉強会でプライバシー保護について学んでいる。トイレや入室時にはノックをして声をかけておりプライバシーを尊重した姿勢を心がけている。トイレには膝掛用のバスタオルを常に置き使用している。  | 職員は、内部研修でプライバシー保護について学び、正しく理解している。言葉かけ時の声のトーンに気をつけ、視線を同じくしてゆっくりおだやかに話すことなどを職員間で申し合わせ、利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない対応に心がけている。個人記録の保管や取り扱いに留意し守秘義務を徹底している。 |                   |
| 38                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 日頃から利用者様との会話を大切にし、声をかけやすい雰囲気づくりをしている。～しましよではなく、～してみませんか、利用者様が選択できる声かけに心がけている。  |   |                   |
| 39                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご自分のペースで生活出来るように職員は声かけをしている。朝が苦手な利用者様もおられる為食事の時間がずれた時には温め直してお出ししている。お好きな時に居室に戻り横になられ、ゆっくりされる方もおられる。居室で仲の良い方同士でお話をしてくつろがれることもある。          |   |                   |
| 40                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 起床時はお好みの服を伺い着て頂いている。ご自分で服を選ぶことが難しい方には、上下のバランスの取れた服装に気配りしてその方らしい服をきて頂いている。男性利用者様の髭剃りも声掛けや介助でしている。移動美容室がありパーマやカット、洗髪、髭剃りなど希望に沿って申し込みをしている。 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月1日は赤飯と一緒に季節に添ったメッセージカードが届いている。おせち、お雛様、敬老会、クリスマスなど季節を感じることができる献立となっている。食事は毎食厨房から届いている。月に一度利用者様と料理をする日を作り、下ごしらえから一緒に行っている。   | 副食は法人の配食を利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。利用者の体調によってミキサー食やきざみ食等の形状にして提供する他、食物アレルギーへの対応をしている。月1回「料理の日」を設け、利用者の要望をきいて献立を決め昼食を作っている。事業所の畑で収穫した旬の野菜(キュウリ、トマト、さつまいも、トウモロコシ、ネギ、ナス、白菜、キャベツ、ホウレンソウ、大根、カブ、サニーレタス等)や果物(スイカ、メロン、イチジク、ブドウ、梅、甘夏、金柑)を使って味噌汁や漬物、サラダをつくっている。利用者は職員と一緒に、下ごしらえ、味付け、盛り付け、お盆拭き、片付け等できることをしている。月1回のおやつ作り(よもぎ餅、たこ焼き、桜餅、スイートポテト、鬼饅頭、かき氷、水ようかん、スイカアレンジデザート、メロンジュース、トマトゼリー、クリームソーダ)や保存食作り(干し柿、梅ジュース、梅干し、しそジュース)、季節の行事食(おせち弁当、恵方巻、ソーメン流し、敬老の日特別弁当、おでん、クリスマスケーキ等)、季節に合わせて食事に変化を持たせ、食事が楽しみなものになるように工夫している。 |                   |
| 42 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 厨房の管理栄養士が立てた献立が毎食届き、利用者様に合わせて一口大・刻み・とろみ・ゼリー食・ミキサー食を用意している。お粥を好まれる利用者様もおられ食べて頂きやすい状態でお出ししている。食事量・水分量をチェックし摂取量の減少がみられたら主治医や看護師・管理栄養士の指示を受けながら、高カロリー食品をお出ししている。食物アレルギーの方へは厨房の協力で別のものをお出ししている。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                          | 協力医療機関があり、定期的に歯科医師・歯科衛生士が往診に来て口腔ケアや義歯の調整をしている。訪問時には職員に向けて口腔ケアの指導もある。夕食後は義歯を預かり洗浄している。歯磨きやうがいが出来なくなられた利用者様にはスポンジブラシやガーゼで口腔内をきれいにしている。  |  |                   |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている          | ケース記録に排泄の時間を書き込みトイレに行かれる時間を把握することで声掛け・誘導をしていることで失敗を減らすように努めている。便座に座って排泄出来ることを大切に、バーをしっかり握って立てることを目標にリハビリ職員の指導を受け、下肢筋力低下を防ぐ運動にも取り組んでいる。便座に座って排泄出来ることを大切にしており、立ち上がりが難しくなられた利用者様も二人介助している。 | 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。   |                   |
| 45 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | 毎日、朝食で牛乳をお出している。便秘気味の方には医師の指示のもと内服薬や座薬でコントロールしている。ラジオ体操や廊下の往復運動リハビリ職員作成のDVD体操などで適度な運動をすることで便秘予防に努めている。  |  |                   |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 利用者様のご希望を伺いながら入浴支援をしており、時間は決めておらず昼間・夕方への入浴希望に応じて入浴して頂いている。しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じて頂いたり、お好きな湯温で入って頂けるようにしている。手浴や足浴も行っている。  | 入浴の時間は14時から20時までとしているが、希望すればいつでも入浴できる。体調に応じて手浴や足浴、シャワー浴等の対応をしている。菖蒲湯や柚子湯にして季節の変化を楽しんだり、歌を歌ったり昔話をしたりと楽しみながら入浴している。入浴したくない人には無理強いせず、時間をずらしたり職員を替えたり言葉かけを工夫して、個々に応じた入浴の支援をしている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                           | 起床や就寝時間は決めておらず好きな時間で生活して頂いている。照明は好みを伺い安心して眠られる明るさにしている。居室に戻り横になられたり、和室やソファでゆっくり過ごされる方もおり、テレビが好きな方はテレビを見ながら休まれる。  |   |                   |
| 48 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                      | 投薬マニュアルに沿って服薬支援している。薬が変更になった時には薬局から薬情報が届き職員は内容を把握している。錠剤がのみにくなられた方には薬剤師に相談し医師と連携を取り見直しをしたり、服薬方法の指導を受けて必要な薬を飲むよう支援に繋げている。                                 |   |                   |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 月に1回料理の日を作り、利用者様と準備や下ごしらえ、盛り付けまでを一緒に行なっている。季節に合わせてよもぎ餅、桜もち、おはぎや漬物作り、デザート作り等利用者様と一緒にしている。誕生日の方へは誕生会を開き、皆さんでお祝いし記念写真を撮っている。お盆拭きや洗濯たたみ等ご自分の役割とされ活躍できる場面がある。 | 料理の日や保存食作り、野菜や果物の収穫(さつま芋やイチジク、トウモロコシ、みかん、ブドウ、シイタケ)などを通して、利用者が活躍でき張り合いがもてる場面となっている。折り紙、ぬり絵、百人一首、魚釣りゲーム、積み木、輪投げ、トランプ、かるた、パズル、読書、駒回し、プレイ傘、リズム体操、ラジオ体操、電気マッサージ、ミニ運動会でのパンくい競争や玉入れ、巨大風船バレー大会、書初め、初詣、ひな祭り、節分の豆まき、こどもの日のこいのぼり、母の日の花束、花火大会、ヨーヨー釣り大会、テルテル坊主づくり、七夕まつり、スイカ割り、お月見、クリスマス会、誕生日会、懐かしのCDを聴くうぐいすの会、金子みすゞの詩を音読する等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごとや気分転換の支援をしている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | コロナ禍で外出が制限され地域行事への参加を控えた一年であったが、天気の良い日は苑庭へ出て日向ぼっこや畑の野菜の収穫・季節の花を植えたりと気分転換の場面を作っている。  | 事業所の庭の季節の花や畑の野菜の生育を見ながら散歩や外気浴をしている。苑庭に植えたチューリップやパンジー、桜、梅、バラ、菜の花、アジサイ、コスモス、紅葉など季節の花見をしている他、庭でのブドウ狩りやみかん狩り、柿もぎなど、外出制限があるなかでも、外気に触れて季節を感じられ気分転換の支援をしている。 |                   |
| 51 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | お小遣いを預かり管理している。お出かけや買い物を控えている為、ご本人に欲しいものをお聞きして職員が買い物へ出かけるようにしている。   |   |                   |
| 52 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | コロナ禍で面会が出来ない時でも電話でゆっくり会話をして頂いている。風花玄関には公衆電話があり、要望に応じて使用できるようにしている。携帯電話で遠方のご家族へ連絡を取っておられる方もおり、職員はこまめに電池残量を確認し充電を欠かさないようにしている。                            |   |                   |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングには置物や絵画が飾られており、文化的な雰囲気の中で生活をしておられる。玄関には季節折々のお花や小物を飾り、利用者様が楽しみにしておられる。リビングや洗面所には苑庭で咲く花や、職員と一緒に作った苔玉を飾り、季節や自然を感じて頂けるようにしている。間接照明で温かみのある空間を大切にしている。 | 玄関に季節の花を飾っている。リビングは開放的で明るく、大小のソファを配置し利用者が思い思いにくつろげる居場所となっている。窓からは、庭の花木や畑が見渡せ季節を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。                            |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている             | 利用者様はソファーや和室、談話室・自席で思いおもいにお一人でくつろがれたり、仲の良い利用者様同士でテレビを見たり外を眺めながら談笑されている。リビングには一人がけ、三人がけのソファーや大小のテーブルを配置しており、庭の畑や花が見えるようにしている。    |   |                   |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に居室のレイアウトを本人、ご家族の希望で一緒に行ない、ご自宅で使われていた馴染みのある家具や寝具などを持ってきて頂いている。風花で撮った写真やご家族からの贈り物など、いつでも見える場所に飾ったりしている。                       | 鏡台、整理ダンス、衣装掛けスタンド、ソファ、テレビ、椅子、テーブル、ラジオ、ベッド、寝具、化粧品、表彰状、絵画、ぬいぐるみ、人形など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、孫の写真、行事の写真、カレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。 |                   |
| 56 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | ユニット内はバリアフリーとなっており、段差はなく扉は引き戸となっている。共同トイレは車椅子や歩行器の方でも使用しやすいように広く設計されている。場所が分からない利用者様のためにトイレのドアに大きく張り紙をしたり、利用者様の居室の扉横に室名札を下げている。 |   |                   |